



ここから描く、私たちの未来



Contents

2022 July

- 03 2022年下期 Global CEOメッセージ
- 04 特集 1
ここから描く、私たちの未来
- 11 Bridgestone E8 Commitment
—— 実現に向けた私のアクション
- 14 2022年に記念周年を迎えました 一前編ー
- 16 こんにちは アローです！
—— (株)ブリヂストン
社外取締役 報酬委員会委員長 指名委員会委員
翁 百合さん
- 17 師匠と弟子
—— ブリヂストンモーターサイクルタイヤ (株)
- 20 特集 2
心動かすモビリティ体験を支える
モータースポーツ
- 28 わが町 わが職場 わが仲間【Season 2】
—— 島根県
- 30 お客様の声
- 31 ありがとうの気持ち
読者プレゼント
ご意見紹介
- 32 当世海外事情
—— イタリア共和国



Web版Arrowは
お家やスマホでも見られるよ！
ユーザー名：bridgestone
パスワード：arrow



COVER

自動運転の車が街を走り、夏休みには月旅行へ……今より少し先の「未来」は、どうなっているのでしょうか。想像に色を重ね、未来を描いていきましょう。

2022年下期 Global CEOメッセージ

上期の振り返りと下期に向けた
グループ従業員の皆さんへの
メッセージを伺いました。

皆さん一人ひとりと共に、 サステナブルな ソリューションカンパニーへ

—— チームメイトの皆さんの取り組みに感謝

皆さん、こんにちは。Global CEOの石橋です。下期に入るにあたって、チームメイトの皆さんにメッセージをお届けします。

年始に、今年の我々を取り巻く事業環境は向かい風に変わっている、とお伝えしました。未だ、新型コロナウイルス感染症拡大が我々の生活に影響を与え続け、2月末にはロシア・ウクライナ危機が起こるなど、世界情勢は新たな局面を迎えています。時代がますます“激動”となるなか、**チームメイトの皆さん一人ひとりが、それぞれの持ち場で役割を果たし、上期の結果につなげていただいたことに心から感謝しています。ありがとうございます。**

—— 上期の業績

上期は、国際情勢を反映した原材料価格の更なる高騰、ブリヂストンアメリカス (BSAM) におけるサイバー攻撃の発生など、グローバルでこれまで経験したことのない事業環境となりましたが、**バリューチェーン全体で、変化に柔軟に迅速に対応するフレキシブル・アジャイルマネジメントを推進**してきました。その結果、第1四半期のグループ連結業績は、対前年同期比で増収、調整後営業利益で増益を達成しました。値上げを含む戦略的な売値マネジメントとプレミアムビジネス戦略の徹底による、高付加価値商品の販売MIX改善などで、原材料の高騰などによるマイナス影響を克服しています。鉱山用タイヤにおいて、断トツ商品「MasterCore」の販売拡大などを通じ、市場シェアを大きく伸ばしたことも、今期の結果に寄与しました。皆さんそれぞれの尽力によって、グローバルで当社グループの強みを発揮し、業績につなげることができました。

—— 変化をチャンスへ

今年は、中期事業計画 (2021-2023) の中間地点にあたり、「強い」ブリヂストンへの変革を加速する1年です。

引き続き原材料・エネルギー・輸送費などのインフレの常態化など、厳しい状況、強い逆風となることが見込まれるなか、**足元をしっかりと、「実行」と「結果」にこだわり、皆さんと知恵を出し合いながら、「変化をチャンスへ」変えていくことが重要だ**と考えています。また、2030年、その先を見据えて、これまで築いてきた“強い”ブリヂストンの基盤の上に、**更なる成長に向けて「将来への布石」を打っていきます**。EV時代の新たなプレミアムとしての「ENLITEN (エンライトン)」ビジネス戦略の構築、ソリューション事業のグローバル拡大加速、共創をベースとしたリサイクル事業の推進など、さまざまな挑戦をこれからも続けていきます。

これらの挑戦は、「断トツ商品」や、社会・パートナー・お客様との信頼関係があってこそ成り立ちます。そして、**そのベースにあるのは、不変の使命「最高の品質で社会に貢献」、ブリヂストンの大原則「タイヤは生命を乗せている」であり、これまでの歴史の中で培ってきたブリヂストンのDNA「品質へのこだわり」「お客様の困りごとに寄り添う」「現場の尊重 (現物現場)」「挑戦」**です。今後の成長に向けても、私達の拠り所は変わりません。

—— 「Bridgestone E8 Commitment」を軸に、 変革を加速

創立91周年を迎えた今年3月1日に、企業コミットメント「Bridgestone E8 Commitment」を発表してから、約3カ月が経過しました。既に皆さん一人ひとりで、また、それぞれの職場において、これに共感できるか、8つの「E」の実現に向けて何ができるかを考え始めていただいていると思います。「Bridgestone E8 Commitment」はブリヂストンらしさにこだわり、定義し、さらに将来の可能性を包含し、広がり期待するものです。**チームメイトの皆さんのそれぞれの立場からの提案・挑戦により、どんどん魂が吹き込まれていくことを期待**しています。

ロシア・ウクライナ危機に際しては、「Empowerment すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくりにコミットする」を軸に、欧州のチームメイトによるボランティア活動や、グローバルでの寄付の実施など、安心して安全な生活を取り戻すための支援を実施してきました。更に、東京・小平の技術センターが4月に「Bridgestone Innovation Park」として再構築され、8つの「E」に基づいた新たな価値を創造する場、新しい働き方を実現する場へと進化しています。

今後も、さまざまな活動を通じて、チームメイトの皆さんと一緒に、「Bridgestone E8 Commitment」と連動した新たな企業文化、新たなブリヂストンのDNAの創造も進めていきたいと思っています。その大きな取り組みとして、



(株)ブリヂストン
取締役
代表執行役 Global CEO

石橋 秀一

事業戦略と連動した人財戦略であるB-HRX (ブリヂストン流のHuman Resource Transformation) を更に推進していきます。今年の下期からの人財投資強化にむけて、経営メンバーだけでなく、NEXT JAPAN 30^{*}、各工場長を含む生産機能、販売機能、人事機能から、数多くの提案を貰いました。私自身が、その一つひとつを丁寧に確認し、月次経営執行会議での議論も経て、具体的施策 (特に現場と若手向け) を決めています。現場の皆さん全員が気持ち良く過ごせる工場施設に向けた職場環境、福利厚生 of 改善をはじめ、労働負荷軽減、そしてブリヂストンDNAを理解していただく創業の地研修を含めた人財育成を実施していきます。スタッフには、若手が自ら主体的にテーマを提案し成長に挑戦できる100日チャレンジプログラムに加え、DX研修を新入社員研修に織り込むとともに、挑戦したい皆さんに広く受けてもらえるよう体制構築を進めます。そして、自律／自発を尊重する部活的活動サポートとしてNewspicks Enterpriseを使ったセミフォーマルな学びの場をテスト導入します。まずは、(株)ブリヂストンで導入を始め、グループ全体でも検討を進めていきます。下期から準備が整い次第、速やかに展開していきます。継続して、皆さん一人ひとりの成長と幸せが、サステナブルなソリューションカンパニーとしてのブリヂストンの成長とも連動するよう、会社としてもさまざまな投資や施策を進めていきたいと考えています。

引き続き、「**Bridgestone E8 Commitment**」を**全ての企業活動の軸として、グローバル全体で進むべき方向性・ベクトルを合わせて、サステナブルなソリューションカンパニーへの変革を加速**させていきましょう。

8月末には2030年へ向けた長期戦略目標を発表する予定です。引き続き、グローバルでのチームワークを発揮し、中期事業計画 (2021-2023) の達成、その先の2030年、創立100周年も見据えて、下期も一緒に頑張っていきたいと思います。

Global CEOメッセージの詳細はこちら▶

■ ユーザー名:bridgestone ■ パスワード:arrow



※社名/役職名/部署名は 2022年7月6日時点のもの。

※本誌は、森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) が認証した森林からのパルプを配合したFSC認証紙を使用しています。

A top-down view of several children's hands painting a large, colorful illustration on a white sheet of paper. The illustration depicts a futuristic, sustainable city. In the center is a circular road with a car labeled 'EV' and a checkered flag. To the left, a person stands at a counter labeled 'タイヤ' (Tires). To the right, a large pink cloud-like shape contains arrows and small icons, with a person standing nearby. The background features green trees, a blue sky with a satellite, and various other futuristic elements like a wind turbine, a rocket, and a person on a bicycle. The children are using various paint containers and brushes. One child is holding a purple paint container, another is holding a red paint container, and a third is holding a yellow paint container. There are also several paint palettes and brushes scattered around the drawing area.

特集1

ここから描く、私たちの未来

サステナブルなソリューションカンパニーへ向けて進化を続けるブリヂストン。
社会の、そして子どもたちの未来を育むこの地球に、私たちのビジネスはどう関わっていけるのでしょうか。
今号の特集では、ブリヂストングループで始まっている未来へ向けたアクションをご紹介します。
一緒に少し先の未来を想像してみましょう！

進む、ブリヂストンの“みらいづくり”

未来の社会では、ブリヂストンの商品・ビジネスがどのように活躍しているのでしょうか。
今まさに動き出している取り組みをご紹介します。

future 01: 月面を走る金属製タイヤ

月面探査車用タイヤ



国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)とトヨタ自動車(株)が中心となって進めていた、『国際宇宙探査ミッション』。地球以外の惑星へ人類の活動領域を広げることが目的としたプロジェクトです。ブリヂストンは、2019年から月面を走る有人探査活動用モビリティ「Lunar Cruiser」開発プロジェクトの一員として、その足元を支えるタイヤの研究開発に取り組んできました。月面の過酷な



環境下でも長距離移動に耐えうるタイヤを目指して、さまざまなパートナーと手を組みながら研究開発を進めています。

その最たる例が、金属加工に高い技術力を持つ(株)浜野製作所様と共に創り上げた全て金属でできたタイヤです。金属製スプリングの上にスチールウールのようなふわふわとした金属素材の接地体を配置し、2本のタイヤが1本になった「ダブルタイヤ型」を採用することで接地面の圧力を分散させ、厳しい環境下での長距離走行を可能にしています。

現在は、月面を想定した砂地や不整地での試験走行を実施しています。地球から遠く離れた場所での新発見を足元から支え、新たなモビリティの在り方を打ち出していきます。

interview

まだ見ぬ発見を目指して ブリヂストンが切り開く未開の地

昨今、火星や月への移住計画など、世界的に宇宙への関心が高まっています。JAXAなどによる研究が進んでいるとはいえ、まだまだ月面環境について分かっていないことも多いのが現状です。

そんな手探りの状況でも前向きに挑戦し続けられるのは、浜野製作所様をはじめとするパートナーの皆様の確かな技術力と試行錯誤を続ける姿勢、そして両社が「世界で初めて月面で氷を発見したい」という共通認識を持っているからこそ。タイヤ設計と金属加工技

術、それぞれの分野のプロフェッショナルとして遠慮なく意見交換をすることで、短期間で独創的なタイヤを具現化しています。

特に、材料の強度や接地面の圧力分散、走行耐久性の改良などにおいては非常に短期間でのPDCAサイクルを回しており、スピード感を持ってプロジェクトを進められる点も今回の共創活動ならではの強みですね。日々のトライ＆エラーも自分たちの糧と捉え、楽しみながらチャレンジしています。



(株)ブリヂストン
次世代技術開発統括部門
フェロー

河野 好秀さん

(株)ブリヂストン
補強材技術戦略・開発部
席主幹

山本 雅彦さん

浜野製作所より

浜野製作所は従業員数50名弱の町工場ですが、ブリヂストン様とは同じ目線で自由闊達にその場で意見を出し合える信頼関係があり、それが今回の共創活動を加速させる鍵になっています。タイヤの試験機から小さな部品に至るまで、ブリヂストン様の仕様書を元に若手からベテランまでが知恵を出し合い、そこで出たアイデアを実際の部品加工へ反映するなど、都度形にしながら進めているため、技術者集団としてやりがいと誇りを感じています。月面探査車用タイヤを通じて日本の金属加工の技術力を世界中に伝えとともに、人類史に残る発見やわくわくの創出に貢献できたらうれしいですね。(株)浜野製作所 宮地 史也さん、浜野 慶一さん、金岡 裕之さん(左から)



future 02: ヒトと協働する“柔らかいロボット”

ソフトロボティクス

ソフトロボティクス事業準備室では、ラバーアクチュエーターを活用したソフトロボットハンドの実用化を進めています。今回開発したソフトロボットハンドは、内側にあるゴムチューブに空気を入れて圧力を加えることで人の指のように曲げることができ、さまざまなサイズ・重さのものを握むことができます。

どの産業でソフトロボティクス技術を展開すれば、より多くの人々の役に立てるのか。人の手によって店舗や宅配向けの商品を仕分ける現場では、扱う商品の種類が多岐にわたり、それぞれ形状が異なることなどから自動化が

進んでおらず、近い将来、人手不足が深刻化すると懸念されています。こうした課題感のもとに日本各地の物流拠点へ足を運び、現地の状況を踏まえて具体的な困り事を確認。また、並行して社内外のパートナーと実証実験を重ね、改善を進めてきました。

今後は本格的な事業化へ向け、実証実験や試験的なサービス提供を進めます。柔らかさ・強さを兼ね備えるソフトロボティクスなら、人々と共に産業を動かす「パートナー」になれるはず。今より働きやすく、誰もが生活しやすい社会をサポートしていきます。



ラバーアクチュエーター(ゴム人工筋肉)



アクチュエーターとは機械を動かすための駆動源のこと。ラバーアクチュエーターはブリヂストンがタイヤや油圧ホースの製造で培った技術で作られたゴムチューブと、それを覆う高強度繊維から構成されています。

ラバーアクチュエーターの特徴

- 軽くて力持ち** 軽量でありながら高出力を発揮するため、ロボットの軽量化に貢献することが期待されています。
- やわらかい** 人にぶつかっても怪我をしにくく、また圧力を加えた状態でも曲げることが可能です。
- 衝撃に強い** 外部からの衝撃に強く壊れにくいので、さまざまな環境下で使用することができます。

interview

答えのない領域へ踏み出す力が、未来をつなぐ

ソフトロボティクス事業が既存事業と異なるのは、ビジネスを0から立ち上げ、基盤構築の段階からパートナー企業へコンタクトを取り、そこで得た課題感から必要な技術を導いている点です。他社との関係構築に始まり、共創に至るまでは、目指したい社会価値・顧客価値を共感し合い、共議し、共研に進んで……といったいくつかのステップがあります。現場の困りごとを伺い、改良を加え、実験室のデモをもとにフィードバックしたり……その繰り返しは、決して自社だけ、担当一人だけで完結するものではありません。そのため、メンバーの一人ひとりがオープンな姿勢を持ち、互いの意見を尊重し合うことを心掛けてきました。

本事業には、もう一つの位置付けがあります。それは、グループ内で起業家精神を持ち、新たな事業価値を生み出す人財を育成するというもの。長きにわたってグローバルメーカーとしての歴史を築いてきた当社だからこそ、「ブリヂストンができること」を固定観念に捉われずに考え、チャレンジすることで、私たちが未来の社会に提供できる価値を導き出せると考えています。



(株)ブリヂストン
G連結業績管理課
兼 ソフトロボティクス事業
準備室

横井 智哉さん

(株)ブリヂストン
ソフトロボティクス事業
準備室

安井 仁さん



future 03: タイヤをタイヤに「戻す」リサイクル共創活動

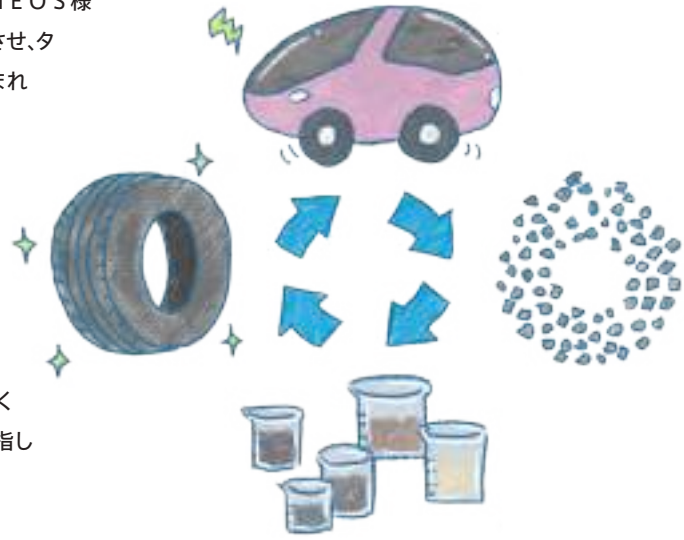
EVERTIRE INITIATIVE

タイヤは通常、たくさんの距離を走り、その役目を終えたあとに回収され、熱源や加工物として利用されることでその一生を終えます。一方で、熱処理の際に発生するCO₂の問題や原材料の安定調達の持続性が懸念されています。こうした課題に向き合い、持続的な社会活動の在り方を考えることは、お客様と社会全体に価値を提供し続ける企業であるために欠かせないテーマと言えます。

EVERTIRE INITIATIVEでは、使い終わったタイヤを新たなタイヤの原材料として生まれ変わらせる事業＝リサイクル事業の確立へ向けて挑戦を始めています。現在プロジェクトの一つとして、使用済タイヤを熱分解し、得られた分解油から合成ゴムの素原料を製造し

て新たなタイヤに活用する技術をE N E O S (株) 様と協働で開発しています。当社が持つ高機能ゴムの設計技術と、E N E O S 様が有する原油精製技術を融合させ、タイヤそのものを資源として生まれ変わらせる取り組みです。

「タイヤがタイヤに戻るのが当たり前社会」を目指し、今後はより幅広いパートナーと共に、社会全体を巻き込む形で開発を進めていきたいと考えています。道端に置いてある使用済タイヤが「廃材」ではなく「資源」として扱われる日を目指して、挑戦を続けます。



EVERTIRE INITIATIVE関連プロジェクト

各国のパートナーとの共創を拡大しています。国・地域の市場特性に応じたエコシステムの確立へ向けに取り組みを進めていきます。

日本

ブリヂストン × ENEOS

使用済タイヤの精密熱分解によるケミカルリサイクル

使用済タイヤからタイヤ素原料を製造するケミカルリサイクル技術の社会実装を目指しています。このプロジェクトは、経済産業省が設置した“グリーンイノベーション基金事業”に採択されています。

アメリカ

ブリヂストン アメリカス × LanzaTech (バイオ技術企業)

炭素回収技術とガス発酵技術で 使用済タイヤが日用品の原材料へ

使用済タイヤからエタノールなどの化学品をつくり、ペットボトルや洗濯用洗剤など日用品の原材料として更に将来的には合成ゴムの素原料として再利用することを目指します。

アメリカ

ブリヂストン アメリカス × Delta Energy (バイオ技術企業)

再生カーボンブラックを 原材料に用いたタイヤを商用化

タイヤの原材料の一つであるカーボンブラックを、使用済タイヤを熱分解して回収した再生カーボンブラックで代替し、これを用いたタイヤを商用化。米国市場で既に販売しています。

interview この先も、モビリティ社会を支え続けるために

自動車業界が大きな転換期を迎えているなかで、今後はより幅広いパートナーとの共創が求められるでしょう。日本で進めているE N E O S 様との取り組みでは、両社でお互いに目指す未来像を共有しています。バックグラウンドの異なるパートナーとも目線を合わせながら、互いの強みを最大限に押し出していく。そのためには思いを伝え、共感していただくことがまずは大切だと実感しています。

この先、社会がどう変化していくかはまだまだ未知数ですが、Bridgestone E8

Commitmentを軸にブリヂストンならではの価値を提供し続けることで、どんな未来にも当社が存在し続ける理由を見出せると考えています。

ブリヂストンのタイヤが「EVER=常に」価値を提供していける存在であるために、そして世界中のチームメイトから「ブリヂストンにいて良かった」と感じていただける組織であるために、今後もEVERTIRE INITIATIVEを旗印に、企業や部門の枠を超えた共創活動を続けていきます。



(株)ブリヂストン リサイクル事業準備室 川田 成美さん (取材時)

(株)ブリヂストン リサイクル事業準備室長 岸本 一晃さん

interview 2050年、100%サステナブル原材料からタイヤをつくる

私たちは新たな天然ゴム資源「グアユール」を開発しています。このプロジェクトの成功の鍵を握るのは、品種改良やゲノム解析技術といった、ブリヂストンにとって新しい技術領域である植物バイオの知見です。そのため、これらの分野の最先端技術を持つ学術機関やスタートアップ企業、米国農務省などの連邦機関と強固なパートナーシップを組みながら進めています。

グアユール事業は、社会価値と顧客価値を同時に生み出す代表的な事例です。ブリヂスト

ンが社会の発展に貢献し、困難な課題にも未来にわたって取り組む意志と強さを持っていることを誇らしく感じます。サステナビリティ活動に取り組むことで、会社のブランド価値向上にもつなげていきたいです。

グローバルプロジェクトチームの弛まぬ努力、イノベーションを奨励する企業文化、そして先見の明を持つマネジメント。これらを足掛かりに、ブリヂストンが環境長期目標で掲げている2050年、100%のサステナブルマテリアル化を目指していきます。



ブリヂストンアメリカス (BSAM) Sustainability Solutions Business William (Bill) Niauraさん

future 04: 新たな天然ゴム資源の開発

乾燥地帯で育つ「ゴムをつくる植物」グアユール

タイヤの原材料のうち約3割を占める天然ゴムは、タイヤの低燃費性能や耐磨耗性能を実現するために欠かせない原材料で、パラゴムノキと呼ばれる熱帯の高木の乳液から作られています。

実はこのパラゴムノキの栽培には課題があります。産地の9割が東南アジアに集中し、病害や気候変動による生産量低下のリスクが高まる一方で、栽培面積を拡大し生産量を確保しようとするれば、熱帯雨林の減少を引き起こしてしまうのです。この課題を解決すべく、天然ゴム資源のサステナブル化に向けて資源を多様化させることが急務となっています。

そこで注力しているのが、砂漠のような乾

燥地帯でも育つグアユールという植物です。グアユールはパラゴムノキ由来のゴムに匹敵する成分を含み、タイヤ向けの新しい天然ゴム資源として期待されています。乾燥地帯で栽培することで、その生産量を増やしなが熱帯の森林伐採を抑えられ、水不足で悩む農地で乾燥に強いグアユールを栽培すれば、農業の活性化にもつながります。

ブリヂストンは、2030年までに、グアユール由来の天然ゴムを使用したタイヤを実用化し、新たな産業を創出することを目指しています。このグアユール事業を通じて、環境問題を緩和するだけでなく、持続可能な経済成長にもつなげていくことを見据え、取り組みを加速させていきます。



グアユール由来の天然ゴムを使用したタイヤがインディカー・シリーズデビュー

グアユール由来の天然ゴムを使用したファイアストンのレースタイヤが、8月にナッシュビルで開催される北米最高峰のフォーミュラカーレース、「NTT INDYCAR® SERIES」のビッグマシン・ミュージックシティ・グランプリで代替レースタイヤとしてデビューします。これはブリヂストンアメリカスが行うインディカー・シリーズにおけるサステナブル技術の採用を加速させる取り組みの一つで、タイヤにはアリゾナ州にあるグアユール研究開発施設で栽培・抽出した天然ゴムを使用しています。今後もレースのわくわくを提供し続ける会社であるために、革新的な技術を通してモータースポーツが環境に与える影響を軽減し、持続可能なモビリティの未来に貢献していきます。



01

共感から共創へ**さまざまなパートナーと
手を取り合う**

「ブリヂストンにとって新しい技術領域の知見を持つ**産官学のパートナー**と**強固に手を取り合い**プロジェクトを進めています。」
—— Niauraさん

「社外パートナーと**ビジョンを共有**することで、常に目的に立ち返り、課題を乗り越えていくことができます。」
—— 岸本さん

「技術者には方向転換が必要な時もある。**外部の視点から適切なアドバイス**をくれる浜野製作所さんにいつも助けられています。」
—— 河野さん

02

多様性**メンバーの違いを強みに**

「チームメンバーの個性を強みに変えて、**それぞれの経験をリサイクル**することが良いチームワークの秘訣です。」
—— 川田さん

「強みが異なるメンバーに**信頼とリスペクトを持って接**すること。丁寧に**コミュニケーション**を取り、**フラットに意見を言い合う**こと。一人でプロジェクトを達成することはできませんから。」
—— 安井さん

03

現物現場**現場に足を運び、
「真実」を確かめる**

「課題をクリアに捉えるためにも、**現場に赴くことが大事**だと思います。」
—— 横井さん

「**頭で想像しているだけではダメ**。現場で壊れたものを見て触るとすぐに分かるんです。『この構造じゃ原材料を変えてもだめだ』とか。」
—— 河野さん

04

当事者意識**他の誰かではなく、“私”が**

「下請け会社と発注会社ではない。**プロジェクトチームの一員であり、“当事者”**なんです。わくわく感も危機感も、チームの一員として共有しています。」
—— (株) 浜野製作所様

「兼任でプロジェクトに参加できているのは、周囲の理解と支えがあってこそ。彼らに『**やらせて良かった**』**と思ってもらえるよう結果を出していきたい**です。」
—— 横井さん

05

社会価値・顧客価値の両立**それは社会と会社
に役に立つか？****「ビジネスにも社会にも有益である**

グアユール事業を誇りに感じています。ブリヂストンが社会の発展に貢献する意志と強さを持っているのが誇らしいです。」
—— Niauraさん

「タイヤを資源に戻すことでCO₂の削減が実現でき、資源も獲得できる。リサイクル事業はまさに**社会価値と顧客価値を両立できる**プロジェクトです」
—— 岸本さん



(株)ブリヂストン
BS DESIGN
コーポレートデザイン室

鈴木 菜々さん

表紙とP4～10のイラストを描いたデザイナーに聞く「未来の話」

未来を描きながら、テクノロジーが発達し社会の姿が移り変わるなかでも、その変化に合わせてブリヂストンの商品やサービスが変わらず最高の品質で社会を支えている姿を想像し、改めて誇らしく感じました。私自身は子どもたちが幸せに生きていける未来を描きたいと考えています。コロナや戦争、地球温暖化がない世界。産休・育休を経て、そんな世界を残したいと強く思うようになりました。私たちの “今” が “未来” につながっていると思うから、私はデザインというコミュニケーションツールをもって、人の、そして社会の役に立ち、そんな未来を今、描き始めたいと思います。

2030年を見据えた企業コミットメント**Bridgestone E8 Commitment****Bridgestone
E8 Commitment
to Our Future**

未来の子供たちからの預かり物であるこの地球のために。
ブリヂストンはコミットする。

Energy

カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えることにコミットする。

「創って売る」「使う」「戻す」バリューチェーン全体でのCO₂削減、カーボンニュートラルの実現へ向けた取り組みなど

Ecology

持続可能なタイヤとソリューションの普及を通じ、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことにコミットする。

「創って売る」「使う」「戻す」バリューチェーン全体でのサーキュラーエコノミーの実現、資源生産性の向上に向けた取り組みなど

Efficiency

モビリティを支え、オペレーションの生産性を最大化することにコミットする。

「断トツ商品」、ソリューションを中心としたバリューチェーン全体において、お客様、ブリヂストン双方のオペレーションの効率化などを通じ、生産性を高める取り組みなど

Extension

人とモノの移動を止めず、さらにその革新を支えていくことにコミットする。

「断トツ商品」、ソリューションを中心としたバリューチェーン全体での活動により、移動や産業を止めないことを実現し続けると共に、継続的な技術やビジネスモデルなどの革新、イノベーションを実現する取り組みなど

Economy

モビリティとオペレーションの経済価値を最大化することにコミットする。

「断トツ商品」、ソリューションを中心としたバリューチェーン全体での活動によるお客様、ブリヂストン双方のコスト最適化の実現などを通じ、経済価値を高める取り組みなど

Emotion

心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする。

モータースポーツ、スポーツなどを通じ、ワクワク感、心動かす体験を提供し、さまざまな挑戦を支えていく取り組みなど

Ease

より安心で心地よいモビリティライフを支えることにコミットする。

ブリヂストンの大原則「タイヤは生命を乗せている」、安心な移動、人々の生活を支えていく取り組みなど

Empowerment

すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくりにコミットする。

DE&Iの推進、アクセシビリティの向上などを含め、地域社会、人々の生活に寄り添い、さまざまな社会問題の解決に向けた取り組みなど

(株)ブリヂストン
関工場
製造課 製造第2係
吉村 啓太さん



チームの枠を超えて
最高の品質を
追求する

#Extension

関工場では、課題解決に向けてクロスファンクショナルチームを組んでいます。スピード感をもって改善に取り組み、より安全でより生産性の高い工程を追求することで、最高の品質でお客様の期待に応えていきます。

(株)ブリヂストン
Global CEO室長
小室 有惟子さん



人とモノの移動を
支え続ける存在に

#Extension

今後人もモノの移動を止めないことが、ブリヂストンの責任だと思います。人が誕生してから続けてきた「移動」という社会活動を支え、その革新を推進する担い手の一人として、日々の業務からそのことを意識し続けていきたいです。

ピーティー ブリヂストン タイヤ
インドネシア
カラウン工場
生産・製造チーム
ロニー・スプリヤトナさん



E8を合言葉に
計画・実行できる
存在に

#Empowerment
#Efficiency

E8を軸にトップダウン・ボトムアップのコミュニケーションを促進し、社内外のパートナーと意見を交わしていきたいです。サステナブルなソリューションカンパニーへ向け、「最高の品質で社会に貢献」を実現していきます。

ブリヂストンサイクル (株)
スポーツ車戦略部
市場開発課
小池 博文さん



誰もが安全な
自転車ライフを
送れる社会へ

#Ease #Empowerment

お子さんからシニアの方、障害を持つ方など、さまざまな方が安心・安全な自転車ライフを送れるよう、交通安全教室などを行っています。これにより、シニアの免許返納や自転車通勤の拡大、交通安全の強化など社会課題の解決につなげていきたいです。

(株)ブリヂストン
栃木工場
製造部 技術課
渡辺 千恵美さん



新たな経済価値を
生み出し続ける

#Efficiency #Economy

那須・栃木の広大な自然環境と各拠点の配置を生かし、新たな素材研究・開発・生産・実車評価ができる北関東工場の新設構想を提案していきたいです。これにより、新たなソリューションを提供、そのスピードを加速させながら、他社優位性・コスト最適化にも貢献できればと思います。

ブリヂストンリテールジャパン (株)
中部支社
タイヤ館 大垣
石原 匡人さん



環境保全で
世界を牽引したい

#Ecology

限りある資源を活用してタイヤ生産を行っているからこそ、お客様がタイヤを長く使えるようにサポートすることが大切だと考えています。お客様満足度向上と環境貢献を両立し、世界にリーダーシップを発揮していきたいですね。

(株)ブリヂストン
R&D改革推進部
組織イノベーション推進課
小倉 理恵さん



「やっぱり
ブリヂストン」を
合言葉にしたい

#Empowerment

私たち従業員を含むすべてのステークホルダーの皆さんが誇れる企業でありたいです。現在、技術・品質経営分掌の組織風土変革「カルチャーチェンジプロジェクト」を推進しています。みんなでEmpowerし合えるよう、成長と幸せのヒントを提供し続けます！

(株)ブリヂストン
防府工場
製造部 技術課
岡 克行さん



“脱”ガソリン
改善を
世界へ広げたい

#Energy

2022年、“脱”ガソリン改善に取り組んだ「外面液水性化」において、栄えあるTQM賞を受賞しました。未来へ向けた決意としてこの活動を世界に発信することで、カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えていきたいです。

チームメイト に聞きました！
E8実現に向け た私のアクション

皆さんは自分の業務とBridgestone E8 Commitmentのつながりを
どのように考 えていますか？
ここでは、国内外 のチームメイトに、
8つの「E」へつなげる アクションを伺いました。

(株)ブリヂストン
次世代技術開発第1部 上席研究主幹
桑山 勲さん



科学技術を強みに
社会課題の解決へ

#Extension #Emotion

当社の高分子材料技術やゴムの接触技術は、タイヤにとどまらずさまざまな領域で生かせる可能性を秘めています。既成概念にとらわれず、未来への価値を求めて広い視野で研究開発活動に努めることで新たな価値を創造していきたいです。

ブリヂストンアジア・パシフィック
ピーティーイー リミテッド (BSCAP)
サステナビリティ・CSR
アシスタントマネージャー
ヤンヤン・テオさん



一歩先を見据え、
実行力を高めたい

#Empowerment

オープンマインドで多様性を受け入れながら意思決定を行うこと、ゼロからチャンスを生み出す意欲やアイデアを実現する勇氣、やり抜く粘り強さを持つこと、そして困っている人を思いやることを心掛けていきたいです。

(株)ブリヂストン
久留米工場
製造第1課 コード・圧延係
荒巻 涼香さん



誰もが働きやすく、
地域に貢献できる
工場へ

#Empowerment

製造現場における女性社員の割合を増やしたいです。また地域から愛される久留米工場を未来の後輩たちへ残すために、安全で品質の良いタイヤ作りを続け、地域貢献活動などにも参加していきたいと思っています。

(株)ブリヂストン
G原材料調達部
原材料第1課
宋 トウさん



使用済みタイヤに
新たな可能性を

#Ecology

現在、研究開発チームとも連携し、使用済みタイヤを分解する際に出てくる分解油やバイオナフサを原料として、サステナブルな合成ゴムのサプライチェーン構築に取り組んでいます。これを通してアップサイクル技術確立し、E8の「Ecology」実現に貢献していきます。

ブリヂストン化工品ジャパン (株)
免制震東日本営業部
免制震東日本営業1課
石田 有花さん



付加価値を
届けられる存在に

#Ease

関わる全ての業務に対し、自分ならではの付加価値を提供していきたいです。そのため、自分自身の着実な成長が欠かせないと思っています。常にモチベーションを高く持ち、業務を通して笑顔の輪を広げたいです。

ブリヂストン
タイヤソリューションジャパン (株)
人事・労務部
鈴木 世奈さん



一人ひとりの夢を
応援できる企業に

#Empowerment

世界のモビリティを足元から支えることはもちろん、新しいことに挑戦し続け、人々の夢を応援続けられる企業でありたいです。私自身も、挑戦することの楽しさを多くの人に伝え、誰かの背中を押せる存在でありたいです。

(株)ブリヂストン
BSJPタイヤ生産統括部門
モノづくり標準化推進課
吉田 修之さん



目指す姿から
今やるべきことを
考える

#Efficiency

日本タイヤ生産がモノづくりでグローバルを牽引すべく、スルラク活動[※]に取り組んでいます。E8の「Efficiency」はこの考え方と通じるものがあると考えています。今後も目指す姿から今やるべきことを考え、着実に前へ進んでいきたいと思っています。

ブリヂストン
タイヤソリューションジャパン (株)
首都圏エリア 東京地区本部
東京第1販売部 板橋営業所
本多 正幾さん



断トツの商品と
サービス、
ネットワークをつなぐ

#Efficiency #Extension
#Economy

Moboxなどのプラットフォームと当社グループのサービス力でお客様のカーライフを支える他、TPP[※]などのソリューション活動で物流業界を足元から支えます。今後もパートナーとの連携を深め、人とモノの移動を支えていきます。

※良いものを標準通りに作り、流せる生産状態を維持する活動のこと

※TPP…運送事業者様のタイヤに関する業務を一括で引き受けるソリューションビジネス

12 | Arrow | Jul. 2022

Jul. 2022 | Arrow | 13

2022年に記念周年を迎えました

—前編—

今年創業・操業開始の記念周年を迎えたブリヂストングループの拠点から、
立ち上げ当時の様子や、職場を知り尽くしたベテランさん、未来を担う若手従業員の声をご紹介します。

⚙️…操業開始時期 📍…所在地



ブリヂストンスポーツ（株）

⚙️1972年9月 📍東京都中央区（本社）

当時ブリヂストンは新規事業計画の一つとして、レジャー産業、特にスポーツ用品業界への参入を計画していました。1972年9月、傘下にスポルディング社を持つ米国クエスター社との折半出資による「ブリヂストン スポルディング」を設立し、ゴルフクラブ・ゴルフボールの生産を開始。1977年にブリヂストン100%出資となり、社名も現在の「ブリヂストンスポーツ」に変更されました。現在は商品の製造・販売のみならず、直営ショップやゴルフスクールの運営、プロゴルフトーナメントの企画・運営も実施しています。



磯部 正博さん

代表取締役社長より

創業以来「スポーツ事業を通じて世の人々を健康・幸せにし、夢を提供する」という理念のもと、スポーツの楽しさや感動を多くの人々に伝えてきました。これは正にBridgestone E8 Commitmentの「Emotion」につながる活動です。これからも、「もっとうまくなりたい。もっとゴルフを楽しみたい」——そう考える全てのゴルファーに寄り添い、ゴルフを愛する「熱量」に、世界のトッププロたちにも認められた高い技術で応えていきます。

ベテランさんに聞きました！

昔と比べ、
変わったと感ずることはありますか？

やはりITの進化に伴う業務の効率化ですね。入社当時は事業所にパソコンが3台しかなく、販売会議が近づくとその3台を使用して終電までデータをアウトプットしていました。また、携帯電話ももちろん無く、お休みをもらう前日には「●●さんから電話があるかもしれない」「この問い合わせにはこのファイルを」などの送り先のメモを課員全員に渡していました。行き先と連絡先を伝えるのも当たり前で、休暇中スキー場のゲレンデで呼び出されたことも今では良い思い出です。現在はパソコンも一人1台、スマホにWeb会議と、当時からは考えられない程便利になりました。

反対に、「昔から変わらない」と感ずることはありますか？

従業員の明るさ、一体感でしょうか。最近ではコロナ禍のため開催されませんが、忘年会などは若い世代がプランニングし、ベテラン社員も率先して大いに盛り上がる、昔からのスタイルはずっと変わってないと思います。

印象に残っている出来事を教えてください！

ブリヂストンのゴルフボールが、ジャンボ尾崎、宮里藍、丸山茂樹、海外ではタイガー・ウッズと、数多くの著名プロの協力を得て進化し、そしてその選手たちの数々のビッグタイトル獲得を支え、共に歩んできたことです。

若手従業員に聞きました！

販売促進部 販売促進ユニット
杉山 愛幸さん
(2021年入社)

未来の目標を教えてください！

入社して約1年が経ち、競技としてゴルフをプレーしていた頃とは違う、さまざまな形でゴルフというスポーツに携わることができました。そのなかで、私はこれからもゴルフが好きな人たちと一緒に仕事をしたいと思いました。「好きこそものの上手なれ」という言葉があるように、ゴルフが好きでなければ時代に沿った新しいアイデアは出せず、ゴルフというスポーツが好きな人の心に届くようなギアは作り出せないと思います。「最高の品質で社会に貢献」という企業理念の使命を大切に、ブリヂストンのギアを使ってくださる方々に寄り添った会社になってほしいし、私自身もそうしていきたいと思っています。



(株)ブリヂストン 佐賀工場

⚙️1982年3月 📍佐賀県三養基郡

スチールラジアルタイヤの急速な普及に伴うスチールコード需要に対応するため、栃木工場（後の黒磯工場）に次ぐスチールコード製造工場として、1982年に操業を開始しました。主に彦根工場以西の工場への供給を担っており、操業開始時は乗用車用タイヤ、トラック・バス用タイヤ向けのスチールコードを、その後鉱山・建設車両用タイヤ向け、航空機用タイヤ向けの製造も開始しました。現在はスチールコードのマザー工場として、海外工場の製造・技術支援も行っています。



操業開始時（左）と、現在の佐賀工場（右）



水田 良樹さん

工場長より

諸先輩方、従業員、地域社会の皆様の支えにより40周年を迎えることができ、操業開始以来タイヤ補強用スチールコードの生産を継続し、お客様と社会に貢献しています。これからも「稼ぐ力の再構築」「プレミアムビジネス戦略」につなげるべく、佐賀工場のモノづくりを更に進化させ、国内のみならずグローバルにも貢献しBridgestone E8 Commitmentを軸として、明るい未来を切り開いていくために従業員一丸となって取り組んでいます。

ベテランさんに聞きました！

昔と比べ、
変わったと感ずることはありますか？

自動機械・高効率伸線機の開発や工程簡素化、コードの生産プロセス変更など、建屋も拡大しながら工場の風景も様変わりしました。また、燃線機の防音カバー化、空調設備の拡充、省エネやゼロエミッションなど、人にも環境にも優しい工場を目指し進化していると思います。

反対に、「昔から変わらない」と感ずることはありますか？

現在、ITやセンシング技術も用いた「問題の見える化」が行われていますが、佐賀工場では立ち上げ当初からQMKを基本として「現物現場」、「データで物を言おう」という変わらぬ風土があります。

印象に残っている出来事を教えてください！

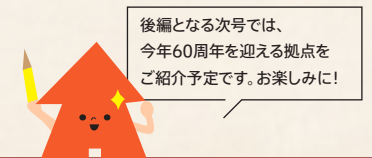
安全対策のため、1000台近くの燃線機に一斉にカバーロックを取り付けたことがありました。「安全はすべてに優先する」という会社の強い思いを感じましたし、このスピード感とアイデアは私の仕事観にも影響があったように思います。

若手従業員に聞きました！

内製SC技術開発部
内製SC先端技術開発課
星 光将さん
(2020年入社)

未来の目標を教えてください！

佐賀工場に配属になり2年が経ちました。配属当初はQMKを用いた改善提案や安全意識の高さなど、佐賀工場が40年かけて作り上げてきた文化に日々驚かされていました。今年度からは、従業員一人ひとりが安全宣言を考え、実行することで更に安全意識が高まっていると感じます。私も開発の立場から安全性を意識した開発を心掛け、従業員全員が元気に楽しく、やりがいを持って仕事ができる職場作りを目指していきたいと思っています。





(株)ブリヂストン
社外取締役
報酬委員会委員長 指名委員会委員
おきな ゆり
翁 百合

東京都出身。大学院卒業後、日本銀行に入行。1992年に(株)日本総合研究所に移り、2018年から同社理事長を務める。(株)ブリヂストンの社外取締役には2014年に就任。2016年からは指名委員会委員と報酬委員会委員を兼務。



今回は(株)ブリヂストン 社外取締役の翁さんにお話を伺います。「こんにちは翁さん、今日はよろしくをお願いします!」

Information

趣味

ピラティス
(週に1回程度教室に通っています。ピアノも長く習っており、リフレッシュの時間になっています)

青年時代夢中になっていたこと

テニス
(最近も時々やっていて、今でもブリヂストンのテニスラケットやサンバイザー、靴下を愛用しています*)
※ブリヂストンスポーツ(株)のテニス事業は2020年末に撤退しています

自分の性格を一言で表すと?

好奇心旺盛
(何事にも興味関心を持って取り組んでいます。落ち込んだ時でも回復は早い方です)

Q1 ブリヂストンの印象を教えてください。

最初に抱いた印象は、「数字に対する意識が高い」ということです。私がブリヂストンの社外取締役に就任したのは2014年。それまでも数社で社外取締役を務めていましたが、メーカー系の企業は初めてでした。「歴史あるグローバルメーカーの経営ってどのようなものなのだろう」と思っていたところ、金融業界で勤めた経験のある私から見ても、仕損費※などの管理が非常に緻密で、それをベースに本質的な課題を追求する姿勢に驚きました。

次に感じたのが、「現場あつてのブリヂストンである」ということです。以前、久留米工場などへ見学に何う機会がありました。その時に拝見した技術力や、現場で働く方々の改善活動が印象的でした。また、その情熱をもって研ぎ澄まされた技術力の高さに、グローバルメーカーたるゆえんを感じました。コロナ禍の影響もありしばらく伺えていませんが、ぜひまた最前線で働く従業員の皆さんと関わる機会を持てればと思っています。

※製品を製造する過程で生じた仕損品(不良品)に関わるコストのこと

Q2 キャリア形成において大切にしていることを教えてください。

どんな時も、目の前の仕事へ誠実に向き合うことです。日々、各方面からいただく報告を確認したり、会議やシンポジウムへ参加したりと、あまり時間にゆとりがない生活を送っています。しかし、事前に共有された資料には必ず目を通してから会議に参加していますし、分からないことがあればすぐに質問するように心掛けています。主体的に、そして誠実に業務に取り組むことで、さまざまな発見があったり自分のやりがいを見出せるようになったりするのではないかと思います。私の性格的にも、動き続けている方が合っているんでしょうね。そういった日々の積み重ねの結果として、自分自身も成長していけたらと思っています。

Q3 翁さんのキャリアにおけるターニングポイントを教えてください。

子どもが生まれたことが、私にとって大きなターニングポイントでした。時間の使い方が一つ取っても、思うようにはいかないのが子育てです。自分の時間を持ってないのはもちろん、仕事と家事で体力的にもいっぱいいっぱいな

時期が続きましたね。息子は小さい頃よく体調を崩してしまう子でしたので、職場の方に協力いただいて極力出張を減らすなど、可能な限り働き方をコントロールしていました。

一方で、この経験から「これから子どもたちが生きていく社会ってどんな世界なのだろう」「より良い社会にするために、今自分にはどんなことができるのかな」と、広い視野を持って業務に当たるようになりました。エコノミストとして未来の社会に向けた提言を行うときに、新しい視点を持てたことは大きなターニングポイントになったと思います。

ブリヂストンでも、女性従業員の割合が年々増えています。柔軟な働き方を取り入れ、周囲と助け合える企業風土を創って、多様なバックグラウンドを持つ人が長く活躍できる職場になるとよいと願っています。そのため、私自身、できるだけ貢献したいと思っています。



Web版Arrowではインタビューの長編版も公開しています! ぜひお読みください。

師匠と弟子

Vol. 63

佐藤 長田さんと初めて会ったのは採用面接の時。採用枠が一人という状況のなか、同じタイミングでもう一人選考をしていた人がいて、実はどちらを採用しようかギリギリまで悩んでいたんだ。でも長田くんが「オートバイで日本一周しました」って言っていたのを聞いて、「純粹に本当にオートバイが好きなんだな」って感じて。そこが大きな決め手だったんだよ。

長田 前職を辞めたタイミングで、ずっとやってみたかったオートバイでの日本一周に挑戦したんです。3〜4カ月をかけて全国を回りながら、いわゆる“自分探し”をしましたね(笑)。

佐藤 私も大学時代に北海道を回ったことがあったけど、日本一周となると時間やお金、何より根気が必要。本当にオートバイ好きじゃないとできないことだし、尊敬しているよ。ちなみに自分探しの旅で何が見つかったの?

長田 特に何も見つからなかったです(笑)。でも、オートバイのことだけを考える時間が取れて良かったですね。初めて見る景色ばかりで新鮮でしたし、ツーリングの魅力を再確認できました。

佐藤 それは何より(笑)。ブリヂストン モーターサイクルタイヤはタイヤを卸すだけではなく販促企画の提案やアドバイス

誰よりオートバイの「ファン」でいる

首都圏、東海、近畿、九州地区でオートバイ用タイヤや関連用品の卸販売を担う、ブリヂストンモーターサイクルタイヤ(株)。オートバイショップや用品店に、販売促進のためのアドバイスや提案を行っています。今回はオートバイの「ファンづくり」に取り組む佐藤 潤さん、長田 和人さんに、業務にかける思いを伺いました。

も主な業務だけど、バイクにまたがるライダーの視点を知っていると、提案の質がグッと上がると思う。その点、長田くんは早い段階からエンドユーザーのニーズを捉えた提案ができていて、さすがだなって思ったよ。

長田 いちユーザーとしての視点でお客様のニーズを拾うようにしています。でも、ライダーの視点を持っているのは僕だけではありません。うちの会社の社員はプライベートでオートバイを楽しんでいる人がほとんど。会社の雰囲気も、同僚や上司・部下というよりも“オートバイ好きの集まり”という感じです。なかでも現役レーサーである潤さんの圧倒的な経験値に、いつも驚かされています。好奇心を持って仕事と向き合う前向きな姿を見て、社員は“社長”ではなく“潤さん”と呼んでいますよね。

佐藤 学生の頃から今まで、飽きることなく楽しんでいるよ。楽しすぎてたまにけがをすることもあるけど(笑)。自分自身がオートバイの“ファン”だから、いつも「オートバイ好きな仲間と会いにいくぞ」という気持ちで会社に向かっている。仲間の困りごとを解決できた時は何よりうれしいし、それでブリヂストンのファンが増えたなら万々歳だね。

長田 僕が特に尊敬しているのは、人に教

えるのが上手なところ。潤さんの話術に心を掴まれているお客様を、これまで何人も見てきました。教員免許も持っていたらいいのかな。

佐藤 そうそう。実は学生時代は教師になるかバイクに関わる仕事に就くかで迷っていたんだよ。ちょうどその頃、ブリヂストンで「BATTLAX」の販売が始まって、会社訪問の時にオートバイの話をしたんだ。そして、「MS(モータースポーツ)課に入って、専門の販売部門を立ち上げない?」って言ってもらって。新人にもチャレンジの場があるなんて面白い会社だなと思って入社を決めた。入社後しばらくモーターサイクルタイヤの販売促進に携った後、タイヤ館の店長も務めたよ。その後ブリヂストンモーターサイクルタイヤ(株)が立ち上がる事になり、モーターサイクル用タイヤに関わる仕事に戻ってきたんだ。

長田 小売店側を経験されていたことも、お客様を惹きつける話し方につながっているのかもしれないね。その姿勢は一朝一夕に身につけられるわけではないと思いますが、少しでも話術を真似しようと、潤さんがお客様とお話している時は聞き耳を立てています。きっと僕だけじゃなく、会社の全員が真似したいと思っているはず。

佐藤 うれしいね。長田くんが立てる販促



「オートバイ歴は40年以上。使われているタイヤを見れば、その人がどんな走り方をしているのか、何に悩んでいるのかも大体分かります」と佐藤さん



「自分が企画した試乗会で、会社や部署の垣根を越えて参加者がタイヤやオートバイの良さを語り合っていた姿が忘れられません」と長田さん

企画は目的意識がはっきりしているから、お客様にとってもメリットを理解しやすいと思う。それに次々とアイデアを出してくれるから、どんどん企画を任せたいと思えるよ。

長田 思いついた企画は、出先であってもすぐ潤さんに相談するようにしています。移動中の車内だって、僕たちにとっては大切な会議の場ですね。

佐藤 うんうん、あの時間はすごく好きだなあ。私も会社を引っ張る立場として悩む時があるんだけど、長田くんにはつい相談してしまうんだよね。「今から独りごと言う

ね～」って前置きしつつ、結局話し込んでしまうことも(笑)。長田くんには会社全体を俯瞰できる存在になってほしいから、そんな期待も込めているつもり。

長田 はい! 期待に応えられるように頑張ります! 会社を率いる立場としての話はとても新鮮ですし、オートバイの魅力をどう広めるか考えている姿を見ると、僕も力になりたいと強く思います。そのためにも、まずは未体験のサーキットやレースについて知見を広げることから始めたいなど。

佐藤 いいね! 今後もオートバイを通して

いろいろな体験をしてもらえたらうれしいな。サーキットでレースに参加したり、モトクロス用コースを走ったり、ツーリングに行ったり、最近だと通勤で使う人も増えているね。長田くん自身がオートバイを楽しむことで、企画の幅がもっと広がるし、ひいてはお客様に提供できる価値も増えていくと思う。これからも幅広い年代へオートバイの魅力を広げていこう!

長田 まさに「ファンづくり」ですね! もちろんです。でもけがには十分気をつけてくださいね!



「一人でも多くのライダーに『BATTLAX』シリーズの『断トツ性能』を体感していただきたいです」
(長田さん)



「客観的な視点と冷静沈着な姿勢で、より良い販促策を立案してください」
(佐藤さん)

師匠も弟子

仕事においても、レーサーとしても。
その背中を追いつづけています。



ある年の新年会
のときの写真。左が
佐藤さんの師匠で
ある金井さん。



今もレースに
参加しています。

—— 佐藤さんの師匠について教えてください。

私がブリヂストンタイヤ東京販売(株)に入社して2年目、「BATTLAX」の販売促進担当だった頃、お世話になった金井さんです。金井さんは、当時ブリヂストンタイヤ東京販売(株)モータースポーツ推進室で2輪担当をされており、数多くのサーキット場と一緒に周りました。

—— 師匠から教わったことは何ですか?

レーサーへの献身的な姿勢ですね。サーキット場で「BATTLAX」を使っているレーサーを見つけたらすぐに駆け寄って熱心に悩みを聞き、時にはコース取りのアドバイスまでしていました。そのまっすぐな姿勢が眩しく、私自身、金井さんから学んだ姿勢が仕事へ向き合うスタンスの原点になっています。最近では、「後ろ姿が金井さんに似てきたね」と言われるようにもなりました。

金井さんは、80歳になった現在もオートバイに乗り続けていらっしゃるそうです。先日はクラシックレースで優勝したとお聞きしました。師匠が現役で活躍されている限り、私も走り続けたいと思っています。



“販売者として、ユーザーとして。”

一人二役でオートバイを盛り上げよう!”

“知識と経験を積み重ね、”

エンドユーザーに刺さる販促企画を打ち出したい”

師匠

ブリヂストンモーターサイクルタイヤ(株)
代表取締役社長
佐藤 潤さん (1985年入社)



ブリヂストンモーターサイクルタイヤ(株)
販売企画課 マーケティング企画担当課長
長田 和人さん (2010年入社)

弟子



クールで不思議なタイプだな	相手の第一印象	温厚だけど、芯が強そうな人
キノコを食べられるようになってほしい(笑)	相手に直してほしいところ	熱くなりすぎるところ
オートバイで日本一周を達成しているところ	相手の尊敬するところ	圧倒的なモーターサイクルの経験値と話術
トカゲ	相手を動物に例えと	競走馬
バランス感覚の優れた人財として成長し続けてほしい	相手に望むこと	変わらぬご指導をお願いします!



BRIDGESTONE Motorsport

特集2

心動かすモビリティ体験を支える モータースポーツ

2023年に、活動開始から60周年を迎えるブリヂストンのモータースポーツ活動（以下MS活動）。
「Bridgestone E8 Commitment」の「Emotion：心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする」を具現化する活動のひとつとして、
10年後、20年後の「走るわくわく」を提供し続けています。
今回は、MS活動の魅力と奥深さをご紹介します。ブリヂストンがこの活動に注力する理由と合わせてお伝えします！

タイヤメーカーとしての“原点”に立ち戻って

ブリヂストンは、1960年代から国内モータースポーツへの挑戦を始め、1980年代に世界へ、まずはヨーロッパF2に参戦しました。その現場で磨き上げた技術を搭載し誕生した市販用タイヤ「POTENZA RE71」は、1986年に、当時、世界最速スポーツカーであったボルシェ 959装着タイヤの座を獲得しました。更に、95年のINDY500®復活を経て、97年から念願のF1、02年からMoto GPへも参戦。世界最高峰のレースへタイヤを供給するモータースポーツ活動は、当社の技術力の高さを世界に証明すると共に、ブリヂストンをグローバルブランドへと進化させました。また、F1参戦により、グローバルプレミアムブランドとして、ヨーロッパのプレミアム車社会・レースのインナーサークルに仲間として認められたことは、その後のプレミアムOEビジネスの拡大と密接に結びついています。

モータースポーツは、「10年後、20年後にも『走るわくわく』を提供しつづける」、まさにBridgestone E8 Commitmentの中の「Emotion 心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする」を体現するわくわくする活動です。タイヤメーカーとしての“原点”に立ち戻ると共に、2013年から協賛を始めた世界最高峰のソーラーカーレース World Solar Challengeなどサステナビリティの視点も含めて、新たなグローバルモータースポーツ文化及び活動を、ぜひ皆さんと一緒に盛上げていきたいと思っています。



（株）ブリヂストン
取締役
代表執行役 Global CEO

石橋 秀一

Part. 01 “走るわくわく”の現場から

ブリヂストンが生み出したレース用タイヤは4輪、2輪共に多くのチームに供給されています。
レースシーズン真っ只中の今、頂点を目指した熱い戦いが各地で繰り広げられています。



国内最高峰のシリーズ戦「SUPER GT」

5月28-29日に鈴鹿サーキットで開催されたRound3に、アローくんが潜入！
白熱した試合の様子を紹介します。

SUPER GTとは、市販車に大掛かりな改造を施した高性能のGT (Grand Touring) マシンによって争われる、国内4輪レース最高峰のシリーズ戦です。ブリヂストンは、SUPER GTの前身である第1回全日本GT選手権 (1994年) から毎年参入しています。

2022年シリーズは、全8ラウンドの開催が予定され、7月までに3ラウンドが終了しました。エンジンの出力によってGT500とGT300の2つのクラスがあり、ブリヂストンはGT500の15チーム中9チーム、GT300の28チーム中5チームにタイヤを供給しています。

タイヤの専門家として、当日のコンディションや各チームの戦略を踏まえた高品質のレース用タイヤを開発・供給することはもちろん、タイヤを提供するチームの重要なステークホルダーとして、「勝利」という共通の目標を目指してレースに臨んでいます。



ブリヂストンの
いろんなスタッフが
関わっているよ

レース現場だけでも
たくさん!

僕が案内するよ!

「SUPER GT」を
見に来たよ!



(株)ブリヂストン
モータースポーツ開発部門
MSタイヤ設計第2課
小川 雄也さん

これは
何をしているの?

レース後に
タイヤの温度を
測っているよ



タイヤを設計する以外にも、
いろんな仕事があるんだね!



僕が案内するよ!

ブリヂストンの
タイヤは世界中
のレースで活躍中!



(株)ブリヂストン
タイヤ開発第3部門
MCタイヤ設計 第3課
山本 健太郎さん



世界一を争う耐久選手権「EWC」

アローくんは世界最高峰の2輪耐久レースの現場へ。

EWCはEndurance World Championshipの略で、世界最高峰の2輪耐久レースです。正式名は「FIMロードレース世界耐久選手権」と言い、今シーズンは年間4戦で開催される予定です。日本で開催される鈴鹿8耐もこのEWCのうちの1戦です。

レースは、8時間から24時間の耐久戦で、2、3人のライダーが交代しながら戦います。24時間耐久では、3人のライダーで交代して走っても一人あたり8時間走ることになり、過酷なレースです。速さだけでなく、持久力も求められ「一番長く走ったチーム」が勝つというのが特徴です。

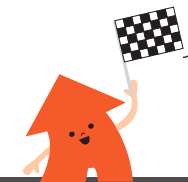
EWCはロードレース世界選手権の中で、唯一複数のタイヤメーカーがタイヤ供給を行い、開発でしのぎを削るレースとなっています。ブリヂストンは、TSR Honda France、YART YAMAHA、ヨシムラSERTMotulの3チームにタイヤを供給しています。グリップと耐久性、昼夜の気温差など幅広いコンディションに対応するタイヤのみならず、乗りやすさも必要な性能として求められています。

Part. 02

“走るわくわく”を生み出すチームメイト

タイヤの設計から当日のレースまで、MS活動には多くの関係者がそれぞれの役割を果たし、協力して最大の成果を上げるために努力を重ねています。

レースが開催されるまで



レース用タイヤの設計

開発部門のミッションは、「速さと強さを兼ね備えた安全なタイヤ」をつくり上げること。レース会場やテスト走行で集めたデータと選手へのヒアリングをもとに、タイヤの構造・形状・ゴム配合などを決め、試作とテスト走行を繰り返しレースに投入するタイヤを選定します。レース中は天候や路面状況、走行データなどから、スペックの切り替えやタイヤ交換のタイミングを見極める役割も担います。



開発工場での製造

東京・小平の技術センターの中にある開発工場ではレース本番までに作られる試作タイヤは多種多様。使われているゴムの種類も市販タイヤより多く、特殊なゴムが使われており、扱いが難しいため工夫を重ねています。時には量産タイヤでは用いられない、複雑な成型技法が求められることも。ブリヂストンの技術力と匠の技がMS活動を支えています。



レースを支えるオペレーション

昨年度は4輪、2輪合わせて年間約60のレースに参戦したブリヂストンの運営スタッフ。オペレーション課は、チームやサーキットとの契約から各レースでの運営、タイヤの搬入手配、観戦する関係者のアテンド、スタッフの食事の準備まで、レースの運営にかかる多様な業務を統括しています。



勝利をつかむドライバー

幾多のライバルとのしごきを削りながら、サーキットを超高速で走り抜ける選手たち。ブリヂストンのレース用タイヤは、ドライバーやライダーの繊細な運転技術が求めるニーズに、最高の品質で応えます。今回は、ブリヂストンがタイヤを供給しているAstemo REAL RACINGの塚越 広大選手にお話を伺いました。



モータースポーツ開発部門
MSタイヤ設計 第2課 (4輪担当)
小川 雄也さん

レースで使われるタイヤはほんの一握り。その裏には数え切れないほどの設計書や試作品があります。故障なく安全にレースが終わり、優勝した選手の方に「最高のタイヤでした」と言ってくれた時は、開発者として一番やりがいを感じますね。



タイヤ試作製造課
トレッド押出 (4輪担当)
相澤 諒さん

ゴムの配合によっては硬すぎて上手く押出せなかったり、逆に柔らかすぎてトレッドの形状を保てなかったりと、その時々で押出条件をコントロールする必要があります。“スムーズに押出できたタイヤが必ずしも良い性能を発揮するわけではない”という点には、作り手として面白みを感じますね。



モータースポーツ企画・推進部
モータースポーツオペレーション課長
鈴木 栄一さん

安全なレース運営の実現を第一に考えています。その上で、レースに勝てるタイヤを供給し、各チームが描くレースづくりをサポートしています。カーメーカーやカーディーラーなどビジネスパートナーとの関係作りや、タイヤの新しい技術の挑戦の場であり、ブリヂストンの従業員のモチベーションアップの場でもあると思います。



チーム名
Astemo REAL RACING
車両
Astemo NSX-GT
(ゼッケン17号車)
塚越 広大選手

GT500のマシンのタイヤを開発・製造するにあたり、多くの難しさがあると伺っていますが、いつも素晴らしいタイヤをつくっていただけて感謝しています。300km/h近い速度で安心して運転できるのは、信頼できるタイヤを装着しているからだと思っています。同じスペックであれば、どのタイヤでも同じ性能を発揮してくれることから、高いレベルで品質管理をされていることが分かります。また、開発の方と先々を見据えたテストをする際には、タイヤにはいろんな世界があるという事を勉強させてもらっています。



タイヤ開発第3部門 MCタイヤ設計
第3課 (2輪担当)
山本 健太郎さん

パソコンと向き合って設計を考えたり、機械でシミュレーションしたりすることはもちろん大切なのですが、設計の肝は「必ず実車で確かめる」点にあると思います。データには表れないけれど、実際に走らせることでわかる情報を大切にする。そうした性能追求に対する強いこだわりを持って、日々タイヤと向き合っています。



タイヤ試作製造課
成型 (2輪担当)
青木 久悦さん

少しの歪みやずれがレースのタイムと選手の生命を左右するため、レース用タイヤは規格の許容差が非常にシビア。モノによっては部品同士が接着しにくい場合もあり、いかに正確にパーツを貼り合わせられるかが成型の腕の見せ所です。こうしたブリヂストンの技術力をもっと多くの方に知っていただきたいですね。



モータースポーツ企画・推進部
モータースポーツオペレーション課
三井 洋さん

レースに勝利することが、ブリヂストンが掲げる「最高の品質で社会に貢献」の実現につながる、そんな手応えが得られる仕事です。「さすがブリヂストン」と思っていただけのオペレーションを通じて、私たちを選んでいただいているチームの最高のレースに貢献していきたいです。



Part. 03 “走るわくわく”を広げる

それぞれの現場での挑戦

MS活動で培われた技術は、市販のタイヤにも生かされています。

MS用タイヤと共に進化を続けてきた シミュレーションと計測技術



(株)ブリヂストン
次世代技術開発第1部
上席研究主幹
桑山 勲さん

市販のタイヤ開発に活用されるコンピュータでのシミュレーション技術には、F1レース用タイヤの解析技術も活用されています。乾いた路面だけでなく雨や雪、泥などさまざまな路面状態での接地面を解析できるため、スタッドレスや農業機械用といった量産タイヤの開発でも活躍しています。また試験機では実車とほぼ同じ走行状態を室内で再現し、接地面細部の力の分布まで可視化できるようになりました。これらを組み合わせて得たデータは設計チームと共有し、更なる改良へつなげています。

タイヤだけでなく「ULTIMAT EYE」の性能向上にも取り組み続け、プレミアム商品の「断トツ性能」にも貢献していきたいですね。

「ULTIMAT EYE」は、タイヤの接地面にかかる力を詳細に可視化する、ブリヂストンが独自に開発した技術です。コンピュータでのシミュレーションと試験機による計測を組み合わせることで、これまで以上に高精度な分析を短期間でできるようになりました。



試験機でタイヤを高速回転させ、
タイヤにかかる力の分布を可視化

MSの技術が生きるプレミアム商品

MS活動で鍛え抜かれた技術を生かしたプレミアム商品は、技能員の皆さんの匠の技によって形になりお客様の元に届きます。熱い思いを持ってプレミアム商品のモノづくりを担当する技能員の方の声を紹介します。



乗用車用スポーツタイヤ「POTENZA」(上)と
二輪車用プレミアムタイヤ「BATTLAX」(下)



鳥栖工場 製造第1課
押出・圧延係(4輪担当)
古賀 隼人さん

ニュース映像でブリヂストンの「POTENZA」が映った時にこのタイヤを作っているのだなと実感し、とてもやりがいを感じます。また、レースの結果が良かったときは、タイヤ製造者として一役買ったような気がして誇りを感じています。プレミアム商品においては押出工程でも部材の幅、重量等について特に厳しい規格が設けられており、それに応えるためにも些細な変化や異常に気づけるよう、常に高い感度を持つよう心掛けています。

那須工場 製造第2課
第2成型係(2輪担当)
大島 晃さん

ブリヂストン唯一の2輪車用タイヤ工場で、私が成型したタイヤが全世界のお客様に届くので、とても誇りに感じています。特にレース用タイヤはタイヤの構造が複雑で、更に厳しい規格を満たしながら作ることの難しさを感じています。それでも、自分が作ったタイヤを装着したレーサーが優勝した時には、私も少しは貢献できているかなと感じ、やりがいにもつながっています。



「走るわくわく」はレースだけのものではありません。

MS活動から得たノウハウは、モノづくりの品質を高め、プレミアム商品を進化させ続けることで、お客様のより安心・安全で、楽しいカーライフへの貢献へとつながっています。

60周年をみんなで盛り上げよう!

来年は、ブリヂストンがMS活動に参画して60周年の節目の年。活動を盛り上げる取り組みがこれから始まります!



モータースポーツ企画・推進部
モータースポーツ
アクティベーション課長
宮下 和久さん



楽しそうな
企画がたくさん!

本年度の盛り上げ企画 一覧

- 7月13日(済)
契約ライダー社内交流会 @那須工場
- 9月中旬
契約ドライバー社内交流会 @鳥栖工場
- 11月下旬
契約ドライバー / ライダー社内交流会 @小平BIP

社内応援団

- 8月6-7日
鈴鹿8耐 @鈴鹿サーキット
- 10月1-2日
SUPER GT @オートポリス
- 10月29-30日
全日本モトクロス @埼玉オフロードビレッジ
- 11月5-6日
SUPER GT @ツインリンクもてぎ

2022年は、とにかく社内の皆さんにMSの魅力を知っていただきたいと考えています。まずはMS活動に触れる接点を作り、興味を持っていただき、レース観戦の機会へつなげることで社内を盛り上げていきたいと思っています。当社契約のドライバー・ライダーの方が工場を訪問して、タイヤを生産する従業員の皆さんと交流するイベントを鳥栖工場と那須工場、そして新たに開所したブリヂストン イノベーション パーク (BIP) で設けるほか、サーキットでの走行会や応援イベントを夏から秋にかけて開催していく予定です。サーキットに足を運ぶもよし、テレビやネットで映像を楽しむもよし。MSというコンテンツを通じて、私たちが働いているブリヂストンを応援していただければ幸いです。



◀タイヤの温度や摩耗などのデータも表示

eモータースポーツの活用

MSの持続可能性を考えた、新たなサポートの取り組みとして注目しているのがeモータースポーツです。車やサーキットにかかる費用をかけずに、少ない負担でMSの魅力に気軽に接することのできるコンテンツとしてその活用方法を探っていきます。F1ドライバーの中には、トレーニングに導入している方もいるくらい、その「リアル感」はなかなかのもの。例えば、POTENZAサーキットミーティングなどの走行会にシミュレーターを持ち込んでリアルな操縦の参考にさせていただくなど、ハイブリッドの体験をお楽しみいただくことを想定しています。



これからのMS活動

MS活動は、Bridgestone E8 Commitmentの「Emotion」にコミットする活動です。レースには、勝負の熱狂はもちろん、それ以外の部分でも人の感情を揺さぶり、わくわくさせる力があります。また、MS活動はとくに環境への負荷が大きいと思われるかもしれませんが、再生可能な材料の開発などサステナブルなタイヤの実現をリードしている一面もあります。今後、研究開発とMS活動との連携がより加速していくことも期待しています。

自動車産業に身を置くブリヂストンには、これからもMSの文化を守り、育てていく責任があります。そのためには、従来のサポートのほか、eモータースポーツをはじめとする既存の枠組みを越えたアイデアを探っていくことが重要だと考えています。

みんなで
盛り上げよう!



モータースポーツ企画・推進部
モータースポーツ企画課長

山本 壘さん

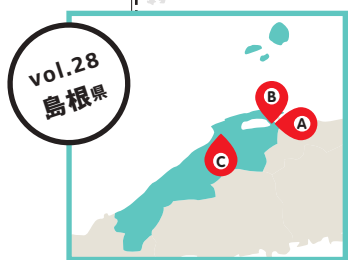


県民性
見える化
戦略

輝け!
ご当地
パワー

わが町
わが職場
わが仲間

SEASON
2



今回は、「情に厚い」「新しいもの
もすぐ受け入れる」「神頼みをよ
くする」「退社後はまっすぐ帰る派
だ」が県民の特徴と言われる島
根県をご紹介します!事業所独自の特
徴も1つ加えてレーダーチャートに
し、どのくらいあてはまるかを回
答いただきました!

※島根県は「平日における平均帰宅時刻
(早い順)」全国2位です(平成28年 社会
生活基本調査)

県民性に当てはまることを推奨するものでは
ありません。気軽にお楽しみください。
(参考資料:「県民性の人間学」祖父江
孝男・ちくま文庫)

A

ブリヂストンリテールジャパン(株) 中四国支社	住 所 島根県松江市東津田町1247-2
タイヤ館 松江南	従業員数 4人

紹介者

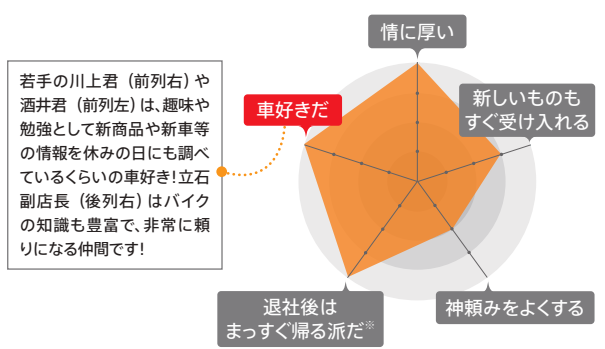
店長の中村 明さん(後列左)

事業・業務内容

タイヤ・関連用品の販売

今後の目標

車のことで何かしら困ったら「タイヤ館
松江南へ行こう!」と思っていただける
ような、安心・安全で頼れるお店を目指
します。



若手の川上君(前列右)や
酒井君(前列左)は、趣味や
勉強として新商品や新車等
の情報を休みの日にも調べ
ているくらいの車好き!立石
副店長(後列右)はバイク
の知識も豊富で、非常に頼
りになる仲間です!



お客様にとって
「頼れるお店」へ!

B

ブリヂストンタイヤセンター西日本(株)	住 所 島根県松江市西津田4-1-9
ミスタータイヤマン 西津田店	従業員数 5人

紹介者

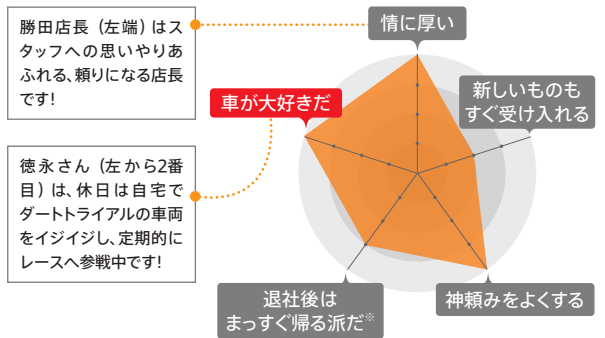
セールスの吉村 和慶さん(中央)

事業・業務内容

タイヤ・自動車用品の販売

今後の目標

地域密着型の店舗を心掛け、お客様の
安心・安全をタイヤ・自動車用品から
サポートできる店舗を目指します。



勝田店長(左端)はス
タッフへの思いやりあ
ふれる、頼りになる店長
です!

徳永さん(左から2番
目)は、休日は自宅で
ダートトライアルの車両
をイジジシ、定期的に
レースへ参戦中です!



地域密着型で
カーライフを
サポート

C

ブリヂストンタイヤソリューションジャパン(株)	住 所 島根県出雲市天神町156-3
山陰地区本部 出雲営業所	従業員数 11人

紹介者

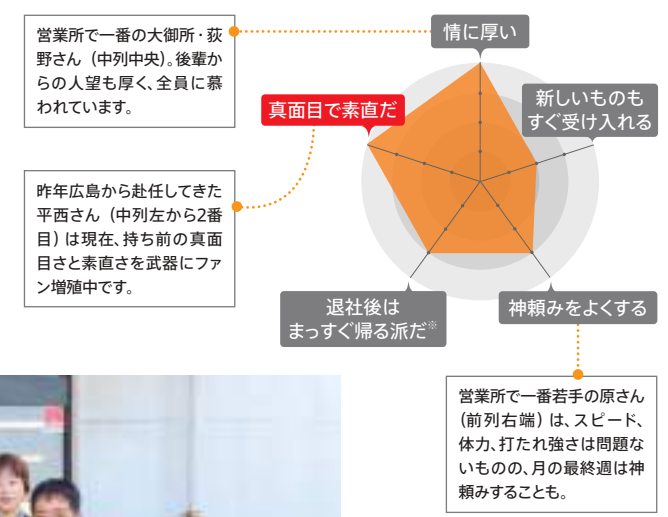
所長の舩岡 俊一さん(後列左から2番目)

事業・業務内容

タイヤ・自動車用品の卸販売

今後の目標

常にお客様目線であること、「元気」
で「明るい」営業所を目指します。ソ
リューション活動を軸にお客様の課題
解決をしています。



営業所で一番の大御所・荻
野さん(中列中央)。後輩か
らの人望も厚く、全員に慕
われています。

昨年広島から赴任してきた
平西さん(中列左から2番
目)は現在、持ち前の真面
目さと素直さを武器にファン
増殖中です。

営業所で一番若手の原さん
(前列右端)は、スピード、
体力、打たれ強さは問題な
いものの、月の最終週は神
頼みすること。



お客様視点の
ソリューションビジネスを
展開!

私たちが
オススメ
します!

行&食
ってみて! べてみて!

グループ従業員の皆さんに、
県内のお勧め観光スポット&グルメを
教えてもらいました!

松江城



海と山に囲まれた松江の城下町にある国宝で、特
に桜の季節はすごくきれいです!
ブリヂストンリテールジャパン(株)
中四国支社 タイヤ館 松江南
中村さん

宍道湖



周囲約47kmの全国で7番目に大きい湖で、特にシ
ジミ、白魚の産地としても有名です。湖を赤く染め
る夕日がとてもきれいで、「日本の夕日百選」にも
登録されています。
ブリヂストンタイヤセンター西日本(株)
ミスタータイヤマン 西津田店
吉村さん

ぜんざい



ぜんざいは出雲が発祥の地とされています。
ブリヂストンタイヤソリューションジャパン(株)
出雲営業所
舩岡さん

Voices

お客様の声

グループ各社に寄せられたお客様の声を紹介します。
更にお客様のご期待に応えられるよう、情報源として役立てていただければ幸いです。



お客様の声の全文はWeb版Arrowでご覧ください！
(ユーザー名：bridgestone パスワード：arrow)

- ♥ お礼・お褒めの言葉
- ？ お問い合わせ
- ★ ご意見・ご要望

♥ お礼・お褒めの言葉

価格以上の性能に大満足です

クロスバイク「イーエスワン」を購入し、今朝初乗りしました。非常に良い乗り心地、操作性の良さ、ブレーキの利き、加速性、フレームの剛性の高さに驚きました。最近の自転車の質の高さに驚くばかりです。価格以上の満足があり、非常に感動し勝手にメールを送りました。

小さい頃、自転車に乗れるだけで楽しかったことを少し思い出したような気がします。このような安全で性能の良い自転車は、メーカーとして自信を持ってお勧めしてください！ (男性)



♥ お礼・お褒めの言葉

「BLIZZAK VRX3」のドライ性能に感動

以前「BLIZZAK VRX3」の冰雪上性能について評価させていただきましたが、今回夏タイヤに履き替えて、改めてVRX3の良さを実感したのでメールしました。夏タイヤは他社のタイヤを半年ほど使用していましたが、VRX3の方がその夏タイヤより軽快感があり、ハンドルも回しやすく、ロードノイズも静かでした。助手席に乗っていた妻もそれが実感できるほどで、「タイヤが変わっただけでこんなに違うのか」と驚いていました。VRX3はオールシーズンでもいけるのではないかと感じるくらい、素晴らしいスタッドレスタイヤだと思いました。

(埼玉県・男性)

★ ご意見・ご要望

ランフラットタイヤをタクシーに装着したい

タクシードライバーをしており、レクサスGSに乗っています。新車装着のタイヤからすぐ「REGNO」に交換しましたが、快適です。

今後タイヤがパンクした時のことを考えて、ランフラットタイヤの「POTENZA S001RFT」に交換する予定です。カーディーラーからは交換しても問題ないと聞いています。乗り心地は硬くなるかもしれませんが、パンクしても一定距離(80km)を走行できる*ので、交換のためにお客様を待たせることが無いのは助かります。年長的にタイヤが重く感じるようになり、自分での交換が大変になってきました。 (匿名)

*空気圧0kPa時に「速度80km/hで80km」まで走行が可能

★ ご意見・ご要望

ドレスアップ バン用タイヤ「GL-R」の18インチを発売してほしい

ドレスアップ バン用「GL-R」について、サイズ拡大のお願いです。現在「GL-R」は17インチまでしか発売されていませんが、他のタイヤメーカーでは18インチ対応サイズまで発売されています。どうか「GL-R」の18インチタイヤを、信頼できるタイヤメーカーで開発を検討し、販売を実現していただきたいと思います。

どのような車で使うかと申しますと、トヨタ ハイエースです。生活環境の多様化で、ハイエースのようなバンタイプをミニバンの延長線上で使用される方が増えています。今現在ハイエース所有者は、上記の他社タイヤの18インチタイヤを装着しています。よって、ブリヂストンにも車検対応可能な18インチの「GL-R」の開発・販売をお願いしたいです。

私はスタッドレスタイヤを「BLIZZAK」のREVO2、REVO GZ、VRX、VRX2、VRX3と使っています。ブリヂストンを応援しています。よろしくご検討をお願い申し上げます。

(長野県・男性)

ありがとうの気持ち

vol. 66

ブリヂストングループの仲間への感謝の気持ちを、リレー形式で紹介します。

新

宮さんは、部署・部門を超えた社内のメンバーを集めたコミュニケーションイベントをいろいろ企画しており、私と新宮さんは直接業務で関わったわけではないのですが、ひよんなことから知り合い、これらのイベントに誘ってもらいました。

私は中途入社で同期がいないこともあり、社内での人脈が希薄な方だったのですが、新宮さんが橋渡しになってくれたおかげでたくさんの方と知り合うことができ、業務でもその人脈に何度も助けられました。

私は今年、化工品部門からタイヤ部門に異動となり、全く新しい世界に飛び込むことになりましたが、新宮さんのおかげで出会えた方々との縁をさらに業務に生かしていきたいと思います。

たくさんの方との出会いに感謝です



(株)ブリヂストン
Bridgestone T&D PaaS技術企画部
Bridgestone T&D PaaS技術企画第2課
丸山 秀行さん から



(株)ブリヂストン
航空タイヤ・ソリューション販売・企画部長
新宮 仁さん へ

Thank You!

共に試行錯誤を続ける同士です



(株)ブリヂストン
BSJPタイヤ生産供給計画部
BSJPタイヤ購入品・バイアスグループ
需給戦略課
今井 孝輔さん から



(株)ブリヂストン
GタイヤSCM S&OP部
アウトソーシングオペレーション課
堀江 拓末さん へ

Thank You!

堀

江さんはブラダー*の需給管理、私は生産計画を作成する立場で関わらせていただいています。私がこの業務を前任者から引き継いだ時は、堀江さんも同じように引き継いでから間もない状況で、共に分からないことも多いなか、試行錯誤を続けていました。現在も前工程・後工程となる互いの業務に関心を持ち、どんな苦労や課題があるかを共有し合うことで、双方にとって最善の解決策や改善を行うことができています。本当にありがとうございます。

お互いコロナ禍に入ってからこの業務に就いているので、飲みに行ったことすらないですね。状況が落ち着いたら行きましょう。

*タイヤの加硫時に使用する補助装置

ご意見紹介

「『Bridgestone E8 Commitmentとは?』プロジェクトメンバー座談会」について

- これまで策定された方針が展開され、そこへの理解や共感を求められるものの、その策定プロセスがわからない中で結論だけを落とし込んでいくことに、自分なりの努力が必要だったのですが、悩みなから策定された過程が一部でも知れたことで、Bridgestone E8 Commitmentへの共感度up、平たく言うと親近感がわきました。(ペンネーム：けんたさん)
- CSRとの違いや、モビリティの解釈に理解できていない点あり。課内の雰囲気もあり理解できていないといった意見が多く、若干の混乱も生じている。(ペンネーム：ハヌマーンさん)
- 正直なところ、タイヤ以外のセクションに所属しているため、「モビリティ」の部分を自分の職場に置き換えるのが難しいところがあります。(ペンネーム：初心者ライダーさん)

編集後記

P4～P10の「ここから描く、私たちの未来」特集を担当しました。どのプロジェクトも新しい試みですが、それを支えるのはブリヂストンに古くから根付くDNAでした。それは、現場に足を運び真実を確かめる「現物現場」の心構えであり、お客様の真の課題を探る「お客様に寄り添う姿勢」であり、失敗を恐れず立ち向かう「挑戦」の姿勢であり、安心・安全を支える「品質へのこだわり」なのです。当たり前ですが、過去の積み重ねがあって今があり、今が未来をつくるのだと実感しました。未来の人に「あなたに任せて良かった」と思ってもらえるように、今何をすべきか、何を描くか、改めて自分の仕事と真摯に向き合いたいと思います。(OG)

Present!
読者プレゼント!

モータースポーツ
観戦グッズ

25名様



*写真は一例です

アンケートのご回答について

ペーパーレス化に伴い、Arrowアンケートへのご回答は、**Webからの回答のみ**受け付けとさせていただきます。右のQRコードよりアクセスの上、ご回答ください。
(ユーザー名:bridgestone、パスワード:arrow)



| 当 | 世 | 海 | 外 | 事 | 情 |

世界の ブリヂストンの チームメイト

vol.41

グローバルで活躍する
ブリヂストンのチームメイトにフォーカス！
海外だからこそそのやりがいや難しさ、
その国ならではの最新情報などをお届けします！

Country
information /



イタリア共和国 / Italy

公 用 語：主としてイタリア語

首 都：ローマ

人 口：約6,036万8千人（2021年時点、日本の約半分）

Bridgestone Europe NV/SA Italian Branch Technical center ブリヂストン ヨーロッパ テクニカルセンター

Pick Out!

欧州・中近東・アフリカ・インド市場向け乗用車用、トラック・バス用、農業機械用タイヤの製品開発や製造技術開発、新技術開発を行っています。約600人が働く事業所ですが、欧州・中近東・アフリカという非常に幅広い市場のニーズに応えるタイヤを提供するため、日々、新たな製品・技術の開発を進めています。

From teammates

この経験を新たな
イノベーションへつなげたい

Material Innovation & Development
藤原 裕次朗さん



研究開発スタッフとして、2020年よりこちらに着任しました。タイヤ用のゴムの配合、主にタイヤの骨格部材となるケースに用いるゴムの開発を担当しています。特に欧州での要求が高い環境規制に対応した配合や、サステナブル材料を使ったゴムの配合開発に注力しています。

Q 海外ならではのやりがいや、大変なことはありますか？

業務内容は日本にいた時と大きく変わりませんが、こちらでは自分の発言がその案件において日本の総意であるように現地のスタッフには捉えられるので、責任が大きくやりがいを感じます。また、組織は職務の内容を詳しく記述したジョブディスクリプションで自分の責任範囲が明確な一方、それ以外の領域の事に対しては関心がなかったりするので、そのギャップに戸惑うことも多々あります。



Q 今後の目標を教えてください！

ようやく現地の人と実際に会ってコミュニケーションをとれる機会が増えてきたので、この機会を大切に、より多くの事を経験したいです。日本で働くことに比べて、良いことも悪いことも当然ありますが、ここで経験したことを日本に戻った際に生かし、新たなイノベーション技術を創れるよう努力していきたいです。

モビリティ 通信



イタリアでは縦列駐車が当たり前です。時にはバンパーをぶつけられることも……。

基本的に、あらゆる面において優しく接してくれるイタリア人ですが、車の運転だけは荒いです。縦列駐車でぶつけられることは有名ですが、合流の際にはアピールしないと入れてくれません。スピードも速く、道路状況が良くないところが多いので、タイヤには厳しい環境です（タイヤの膨れやカットが発生すること……）。放置すると空気が漏れて事故につながる危険性が高まるので、すぐにタイヤ交換へ！

コロナ禍 最 前 線

コロナ禍以降、チームは3グループ制が引かれ、自グループの日のみ許可をもらって出社できるという原則完全リモートでの業務でした。社内ではマスク着用義務がありますが、テクニカルセンター内でマスクを生産しており、出社の際にもらうことができます。またゲートにて、ワクチン接種や検査による陰性結果を記録した「グリーンパス」のチェックもありましたが、今年5月以降ルールが撤廃され、ようやく自由に出社できるようになりました。



グリーンパス